令和7年度森林環境譲与税の使途

成田市の森林環境譲与税の使途内訳

（単位：千円）

事業名	事業内容		決算額	財源内訳			
				森林環境譲与税	基金取崩額	基金運用益	その他
森林保全事業	委託料	道路や電線などの重要インフラ施設の倒木被害を未然に防止するため、「重要インフラ施設周辺森林現況調査」及び「重要インフラ施設周辺森林整備事業」などによる森林整備のほか、森林ボランティアなどの育成を目的とした「里山ボランティア研修事業」の実施のための委託料を支出した。	10,784		10,632		152
	使用料及び賃貸料	森林関連情報を県と共有し、業務の効率化を図るため、「森林クラウドシステム」の回線使用料を支出した。	88		88		
	負担金及び交付金	県内の会員市町村で組織される千葉県森林経営管理協議会の負担金を支出したほか、千葉県森林組合が実施する森林の下刈りを支援するため「森林整備事業補助金」を交付した。	460		206		254
	消耗品費	森林整備に係る現地調査や完了検査を行うために必要となる、木杭を購入した。	36		28		8

成田市の森林環境譲与税の使途内訳

（単位：千円）

事業名	事業内容		決算額	財源内訳			
				森林環境譲与税	基金取崩額	基金運用益	その他
森林環境整備基金積立金	基金	森林の整備及びその促進に関する施策に備え積み立てた。	24,368	24,325		43	

令和7年度に実施した主な事業

森林整備

千葉県　成田市（重要インフラ施設周辺森林整備事業）

- 成田市では、令和元年の台風による大量の倒木が、道路や電線などの重要インフラ施設に多大な被害をもたらしたため、本市が事業主体となり、重要インフラ施設への倒木被害を未然に防止するための森林整備を進めている。
- 令和7年度においては、前年度までに実施した森林の現況調査の結果や市民からの要望等をもとに選定した市内2か所において、森林環境譲与税を活用し、被害木や倒木の伐倒・搬出、跡地への植栽を実施した。

□　事業内容

重要インフラ施設周辺森林整備

前年度に実施した現況調査の結果や市民からの要望等を踏まえ、市内２か所において、被害木や倒木の恐れがある樹木の伐採・搬出、跡地への植栽を実施した。

また、前年度までに整備した森林については、県の「災害に強い森づくり事業」や森林環境譲与税を活用して下刈りを実施することで、苗木の成長を促した。

【事　業　費】9,031千円（うち譲与税8,878千円）
（譲与税は、樹木の伐倒・搬出・植栽に充当）
【実　　績】特殊地拵え0.29ha
被害材運搬229.44t　植栽0.30ha　下刈り2.53ha


（事業実施前）


（事業実施後）

□　取組の背景

・令和元年の台風では、市内において大量の倒木が発生し、道路や電線に倒れかかり、交通障害や大規模な停電を引き起こした。

□　工夫・留意した点

災害に強い森づくり事業の採択要件を満たせない小規模森林について、市の単独事業として、森林環境譲与税を活用し、森林整備を実施した。

□　取組の効果

・倒木の恐れがある樹木や被害木を伐採し、中低木の広葉樹を植栽することで、倒木の恐れがなくなり、市民の安心で安全な生活を確保することができた。
・ヤマアジサイ、ガマズミなど、華やかな広葉樹を植栽したことにより、良好な景観の形成が見込まれる。

◇　基礎データ

①令和７年度譲与額：24,325千円	**②私有林人工林面積**（※１）：1,594ha	
③林野率（※１）：23.9%	④人口（※２）：132,906人	**⑤林業就業者数**（※２）：6人

※１：「2020農林業センサス」より、※２：「R2国勢調査」より

普及啓発

千葉県　成田市（小学校郊外森林体験）

- 成田市では、森林所有者の高齢化や不在地主の増大により、荒廃した森林が増加しており、子供たちが里山で遊ぶ機会がほとんどなくなってしまっていた。
- このような現状を踏まえ、森林環境譲与税を活用し、児童を対象とした「もりあそび体験」を実施することで、里山への理解や関心を深めてもらうとともに、本市における里山活動に興味を持っていただく事業に取り組んだ。

□　事業内容

小学校郊外森林体験

- 自然のものを用いて遊び、森の素晴らしさや豊かさを実感するプログラムとなっており、具体的にはじゃんけん落ち葉拾い、秋探し探検、どんぐり転がし、葉っぱのステンドグラス、落ち葉飛ばし、落ち葉のゆくえなど、計8種類のプログラム実施した。

【事　業　費】528千円（全額譲与税）
【実　　績】成田市立大栄みらい学園1年生46名
　　成田市立下総みどり学園1年生21名　を対象に実施

□　取組の背景



（葉っぱのステンドグラス）



（落ち葉飛ばしの様子）

□　工夫・留意した点

・児童を４～6班に分け、それぞれに自然観察指導員が付き、児童が森の素晴らしさや豊かさを実感できるようにプログラムの流れを工夫した。

□　取組の効果

・今回の小学校郊外森林体験を通して、児童が自然と触れ合うことで、里山への理解や関心を含め、将来、担い手となる人材を育むきっかけとなった。
・児童も初めて見る虫や葉っぱ、木の実に興味をもち、熱心に8種類のプログラムに取り組んでいた。

◇　基礎データ

①令和７年度譲与額：24,325千円		②**私有林人工林面積**（※１）：1,594ha
③林野率（※１）：23.9%	④人口（※２）：132,906人	⑤**林業就業者数**（※２）：6人

※１：「2020農林業センサス」より、※２：「R2国勢調査」より